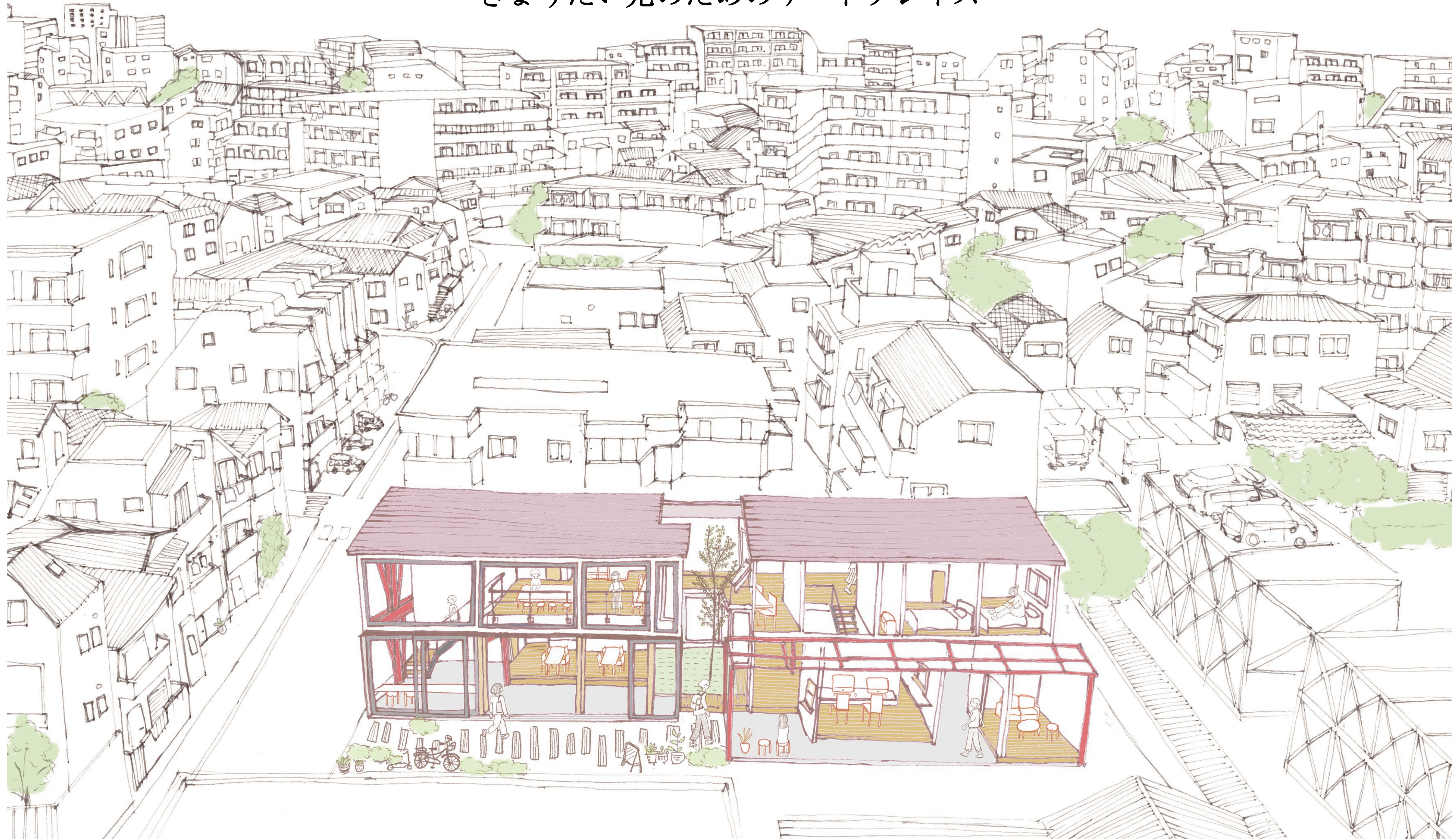
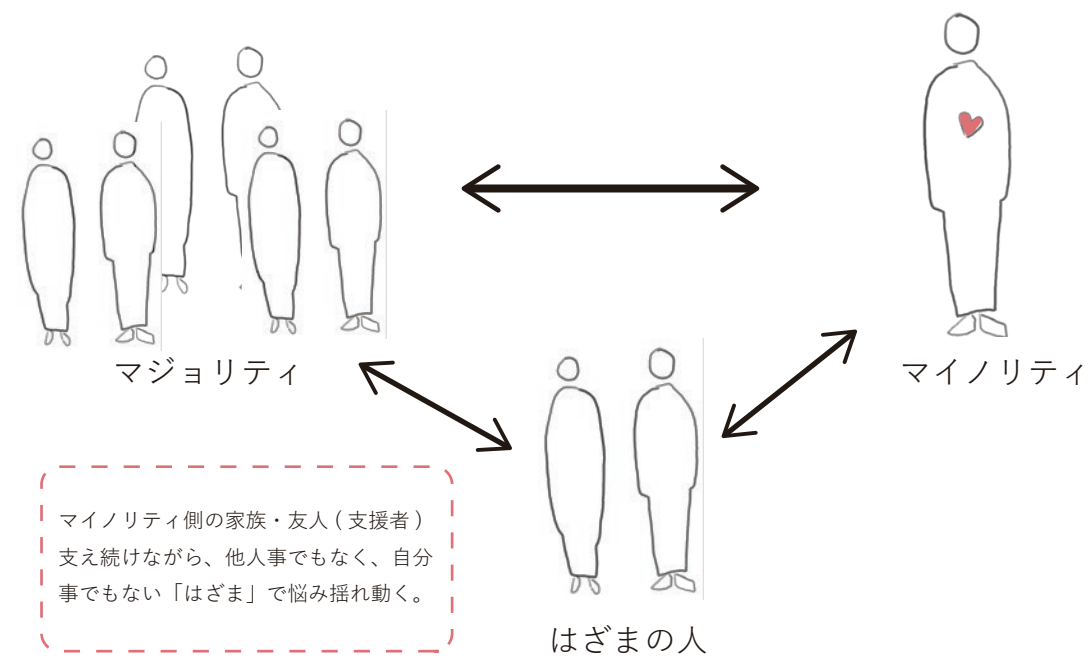


はざまの長屋

- きょうだい児のためのサードプレイス -

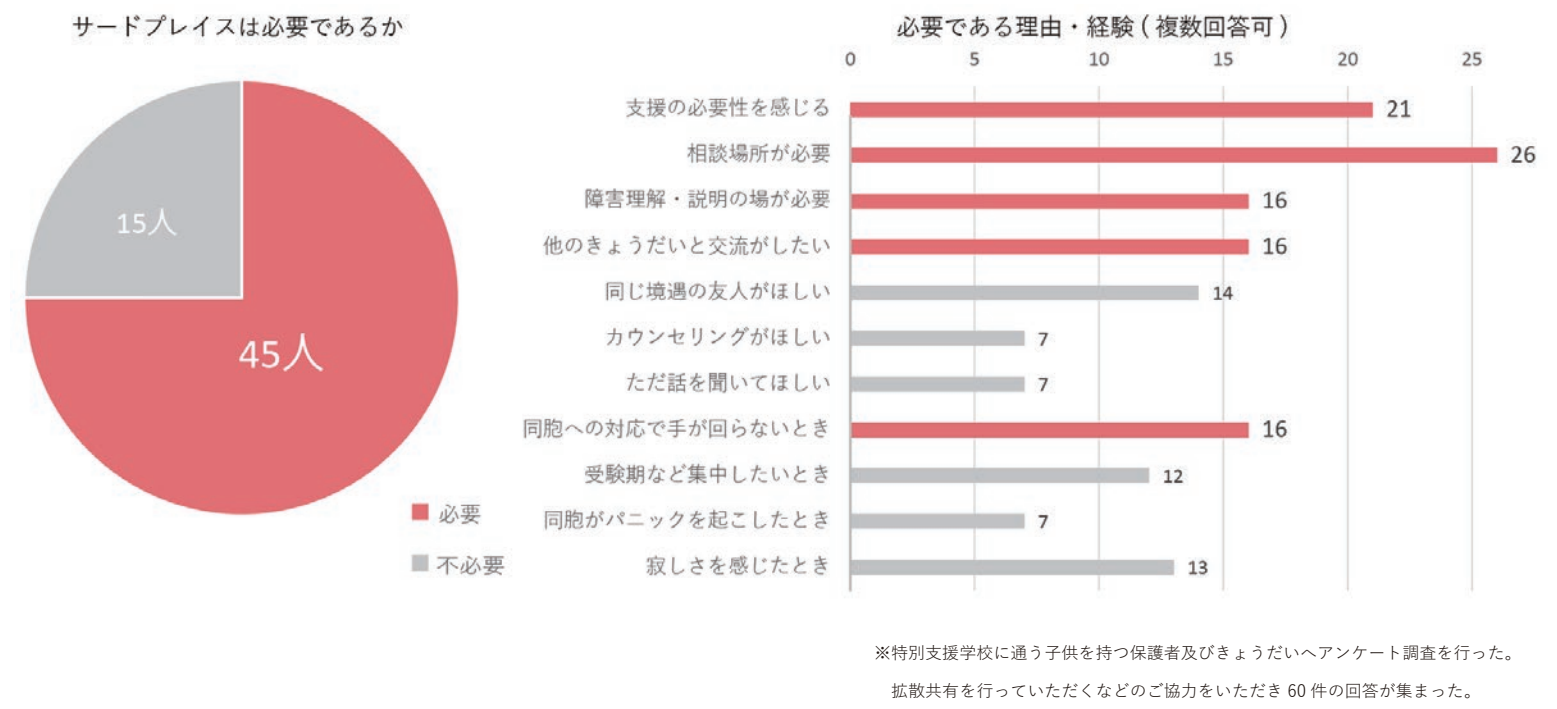


0. 多様性の陰 はざまの人達



障がい者やLGBTQをはじめとしたマイノリティの尊重と共生を目指し多様化が謳われるようになった。多様性とは一見してマジョリティとマイノリティの二者によって成立しているように見える、実際には陰にマイノリティ側の支援者がいる。多様性が進む今、支え続けながら他人事でもなく、自分事でもない「はざま」で悩み揺れ動く人達が、悩みを共有し一息つけるようなサードプレイスを計画する。

1-3. 現状調査



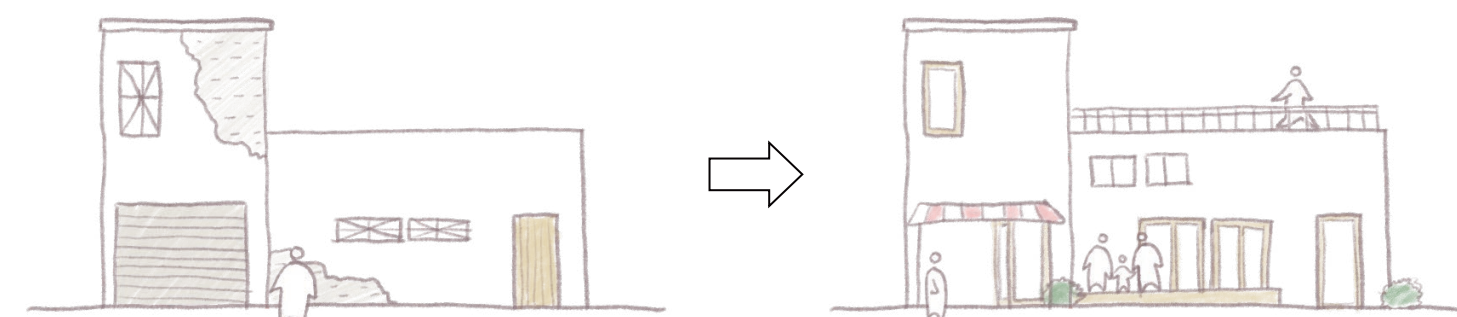
現状調査より

「悩みを相談できる場所」
「他のきょうだいで交流できる場所」
が必要とされていることが分かった。

- ・必要とされるセミプライベートな空間
- ・個室といったプライベートな空間
- ・地域の方々が利用できるパブリックな空間

4. リノベーション選択理由

「地域問題への回答」



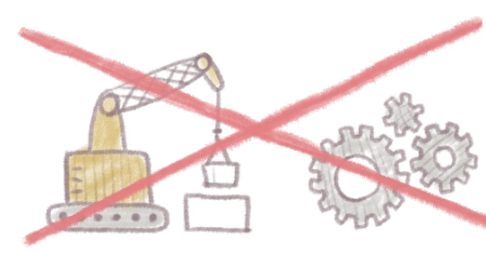
地域の問題に向き合い、地域に根ざした存在で、地場産業として栄えてきた背景をもつ町工場を新たな地域拠点としてリノベーションする。パブリックな場所となることで、きょうだいの認知理解に繋がっていくと考える。

「施設運営面」



きょうだいの会などの支援団体または自治体での運営を想定している点、様々な場所に展開していく点から、運営面からみてリノベーションが適切であると考える。

「特殊な設備」



エレベーターやクレーンなどの特殊な設備は不必要で、住宅程の設備で運営できる。

「建物の建てられ方」

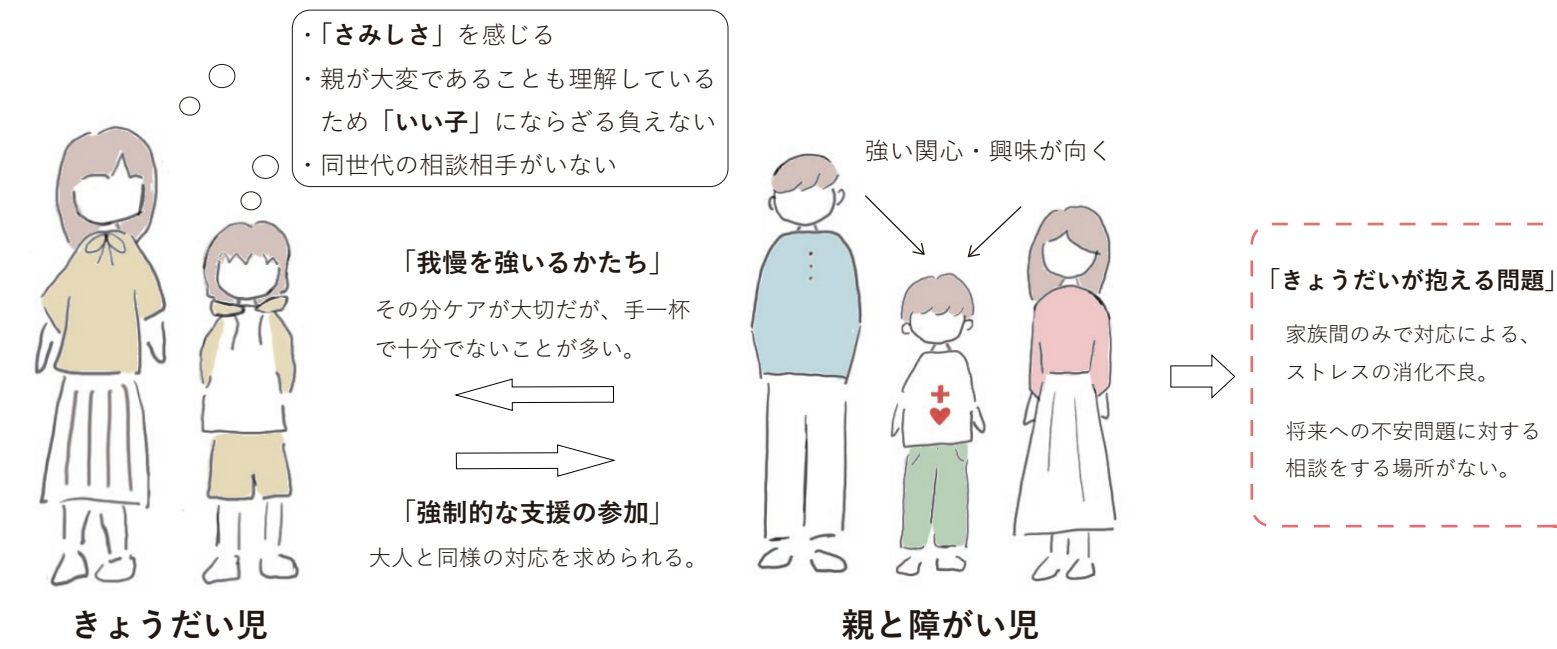


道に面して大きな開口があるなど接点大きい建てられ方

周囲、他者への接点が少ない建てられ方

町工場は外部との接点の大きき、周辺との関係性が強いいため、本計画のリノベーションに適切であると考える。

1. きょうだい児について

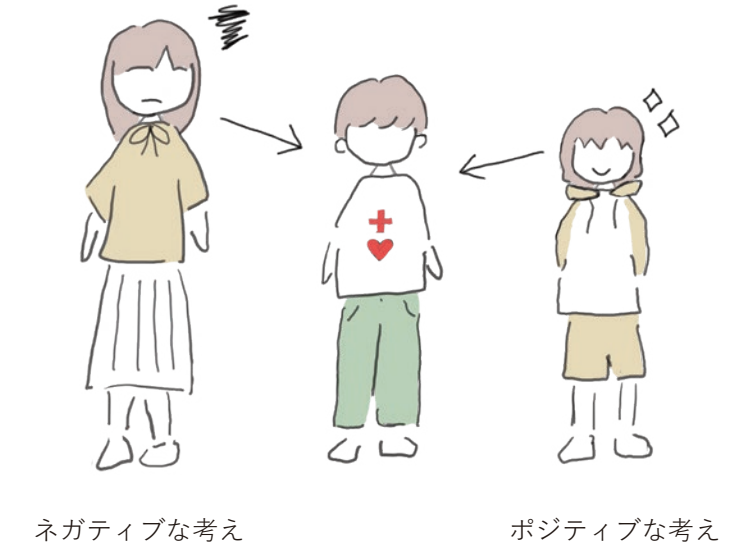


きょうだい児

親と障がい児

本研究でははざまの人の中でも「きょうだい児」を対象に行うものとした。きょうだい児とは、体や心にハンディキャップを抱える兄弟姉妹を持つ子ども及び成人のことを指す。現状としてストレス負荷が大きく、家族間のみで解消されない場合も多い問題であるため、外からの支援を行う必要があると考えた。本設計では、自らの「きょうだい児」という経験と視点から、きょうだい児のためのサードプレイスを計画する。

1-2. 様々な考えを持つきょうだい児



障害のないきょうだい間でも仲の良し悪しはあるもの。ハンディキャップをもつ兄弟姉妹に対して、ポジティブな考えをもつ人もいるが、ネガティブな考えをもつ人もいる。TVや本で描かれてきた、「きょうだい愛を持った優しいきょうだい児」だけでなく、さまざまな考えのきょうだい児がいる。

2. サードプレイスの展開



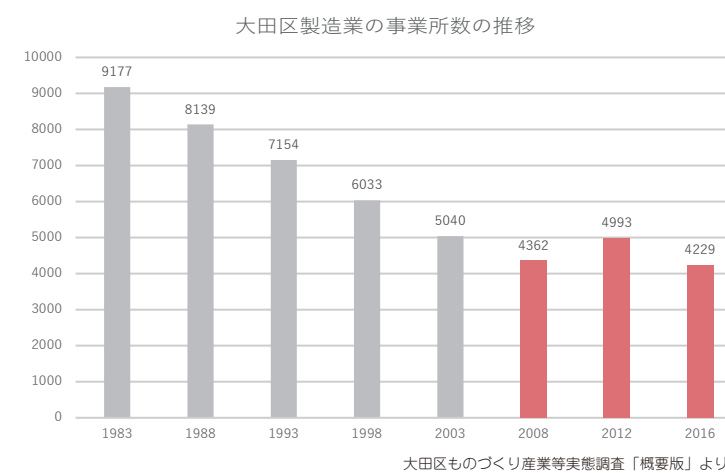
1つの建築物があれば解決する問題では決してない。多様なプログラムを持つ拠点を複数展開するべきではないかと考えられる。この設計では、起点となるサーバー的なサードプレイスを計画する。

3. 対象地域・抱える問題



東京都大田区下丸子を対象地域とした。周辺には商店街、住宅地、町工場、教育施設、特別支援学校があり幅広い世代が生活している。

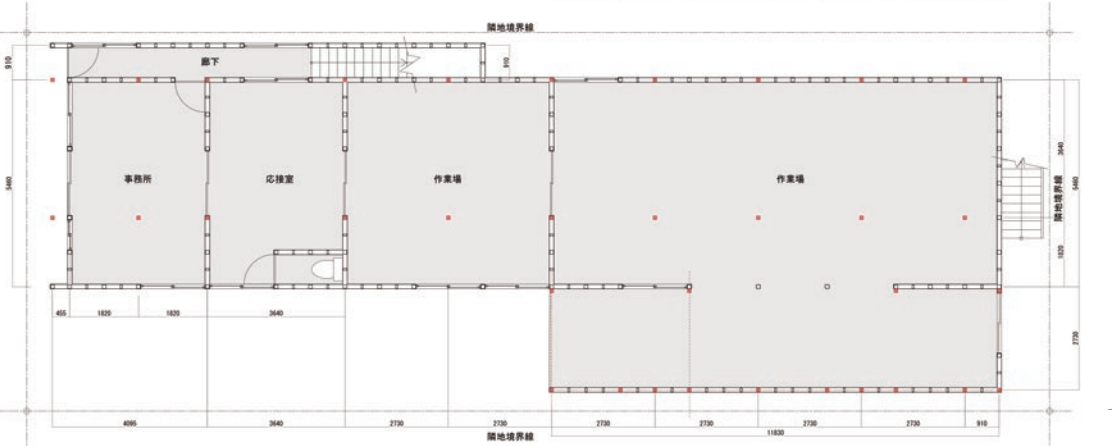
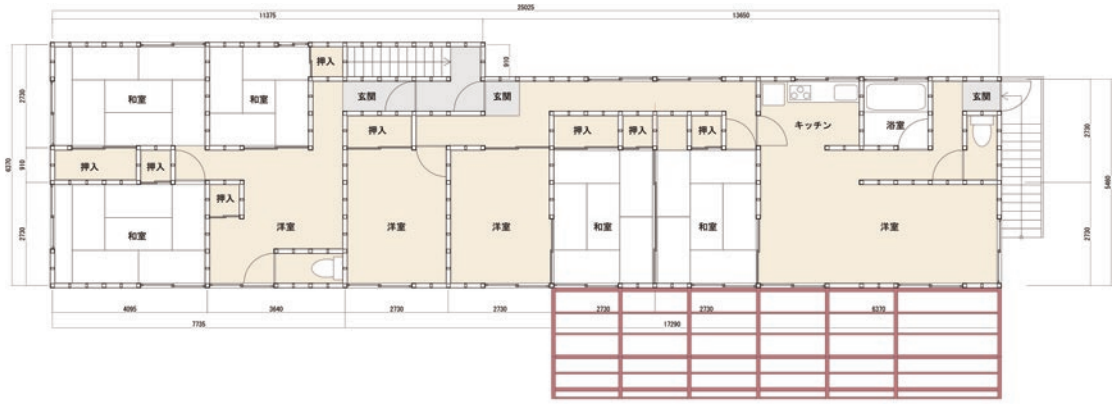
選択理由としては、アンケート回答者の生活区域に近いこと、特別支援学校との協力体制をつくることができそうなこと、比較的大きな駅から程近い立地などがある。



大田区のもつ空き工場問題に着目した。大田区は、コロナ禍や後継者不足により空き工場が増加し空き家問題と併せて問題となっている。

そのため大田区では、年に数回「おたオープンファクトリー」という大田区の町工場を公開・見学・体験できるイベントを行っている。

5. 既存建築物・改修計画



「既存建物概要」

築年数	面積（土地面積）
1961年11月（築60年）	283.03㎡（271.46㎡）
構造	間取り
混合造（鉄骨、木造）	8LDK（1F-作業所、2F-2世帯住居）

「改修計画」



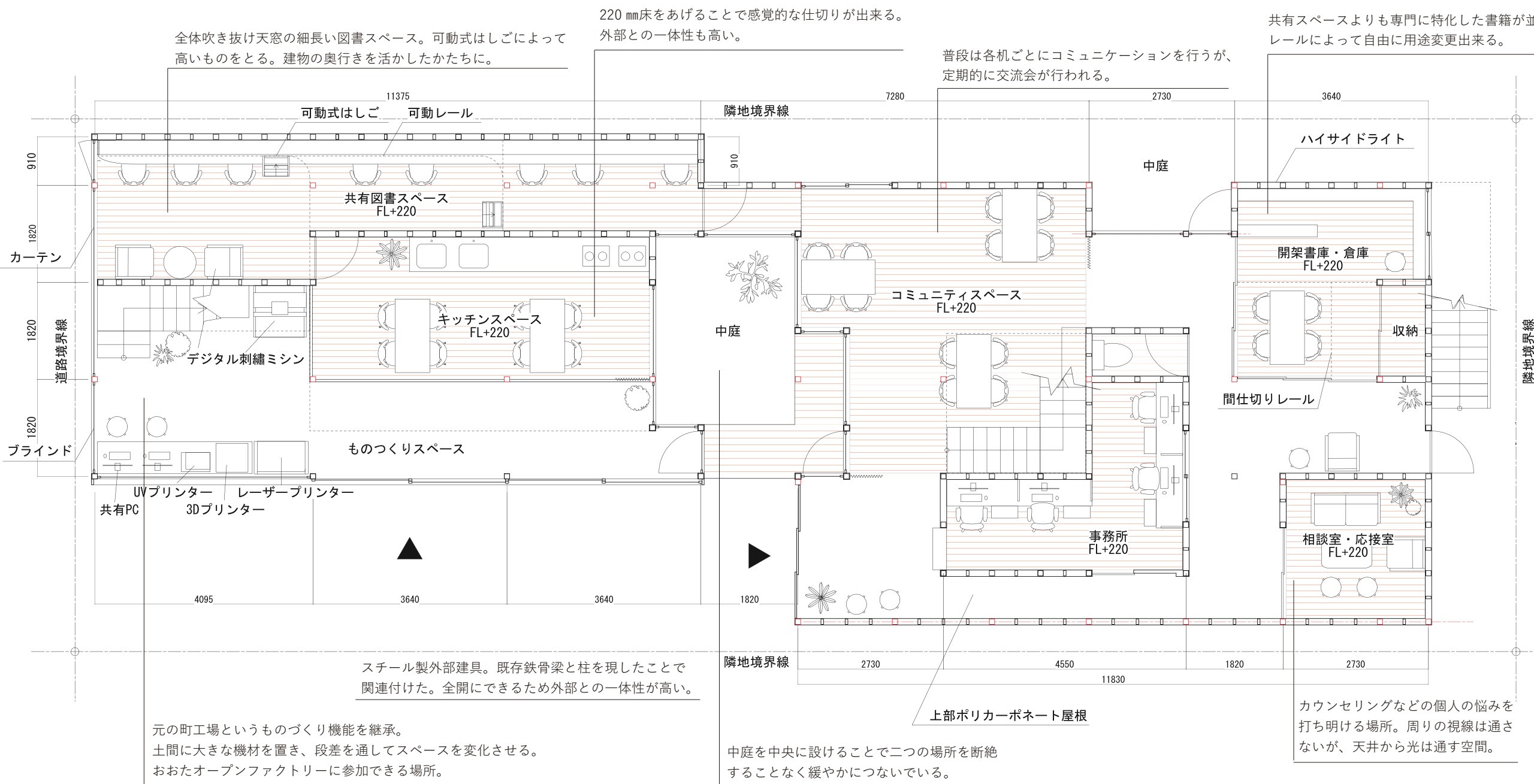
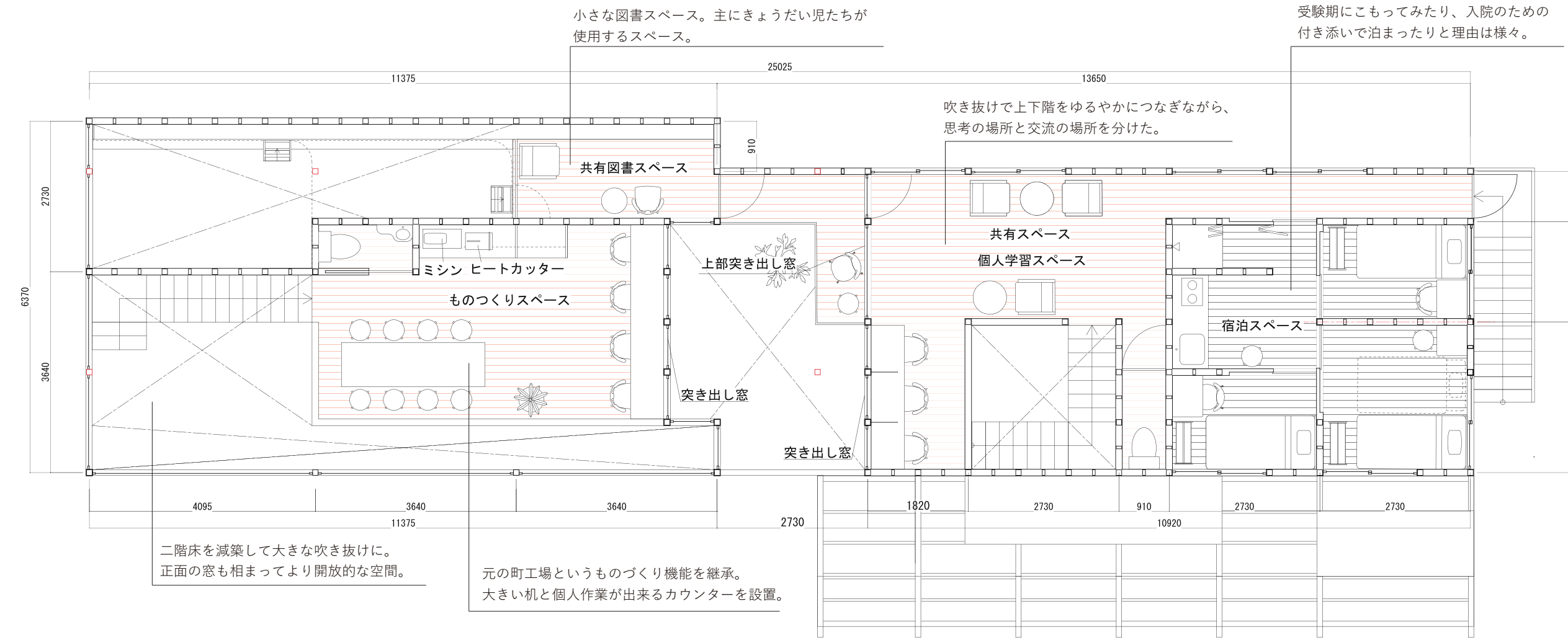
建物のもつ、奥行き性や混合造を活かしたものとす。改修で全て変えるのではなく、鉄骨と頑丈が特徴的なファサードや町工場というもののづくりの機能を継承する。また、地域コミュニティへの参加を目指し地域交流拠点としても改修する。

「協力支援者」



施設運営などの協力支援者は、全国きょうだい児の会、知的障がい者の福祉支援等を行う育成会、地方自治体と想定する。また、特別支援学校・SNSを通して情報発信を行いサードスペースの認知を図る。

6-1. リノベーション



「新たな床」



1階は全て土間であったため、新たな床を設けることで、設備の導入や段差・カーテンを用いた間仕切をする。

「二階床の減築」

2階は大きく吹き抜けをつくる計画とし、パブリックな場所は一体性をもつように、サードスペースは上下階で関係性を断絶させないように考慮。

「室の配置」

道路側は賑やかなパブリックな場所、奥側に行くにつれ個人の深層に寄り添うパーソナルな場所とな。奥に行くにつれプライベート性の高い配置。

「中庭と共有スペース」



ものづくりラボとサードスペースの間に中庭を設けた。2つの場所を断絶することなく繋げる。

「ボックス状の室と余白」

ボックス状の室の間に生まれた余白は、仕切次第で用途が変化し様々な活動に利用。

「それぞれの過ごし方」

—ものづくりラボ— —サードスペース—



ものをつくる。手を動かす。 交流する。悩みを共有する。



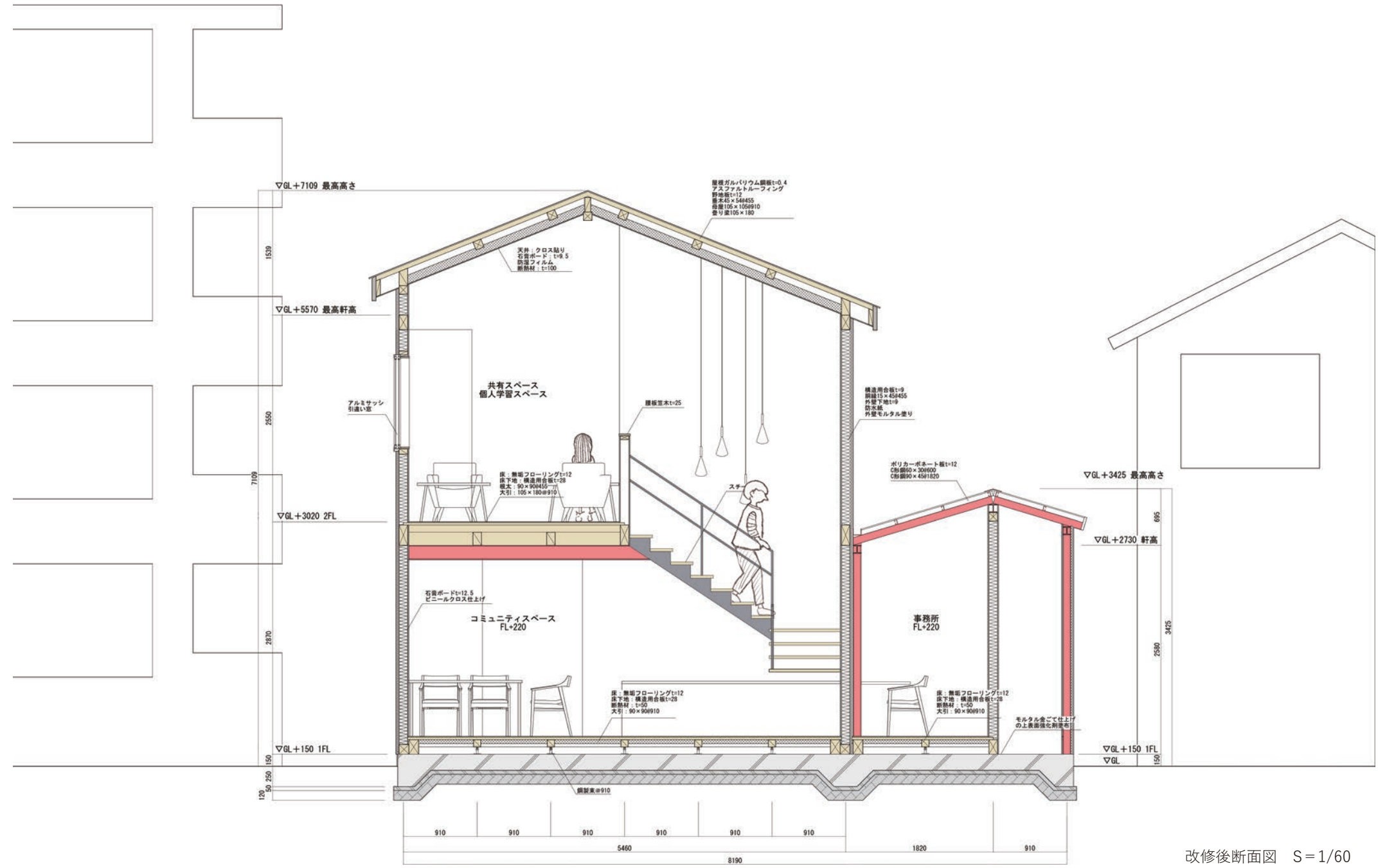
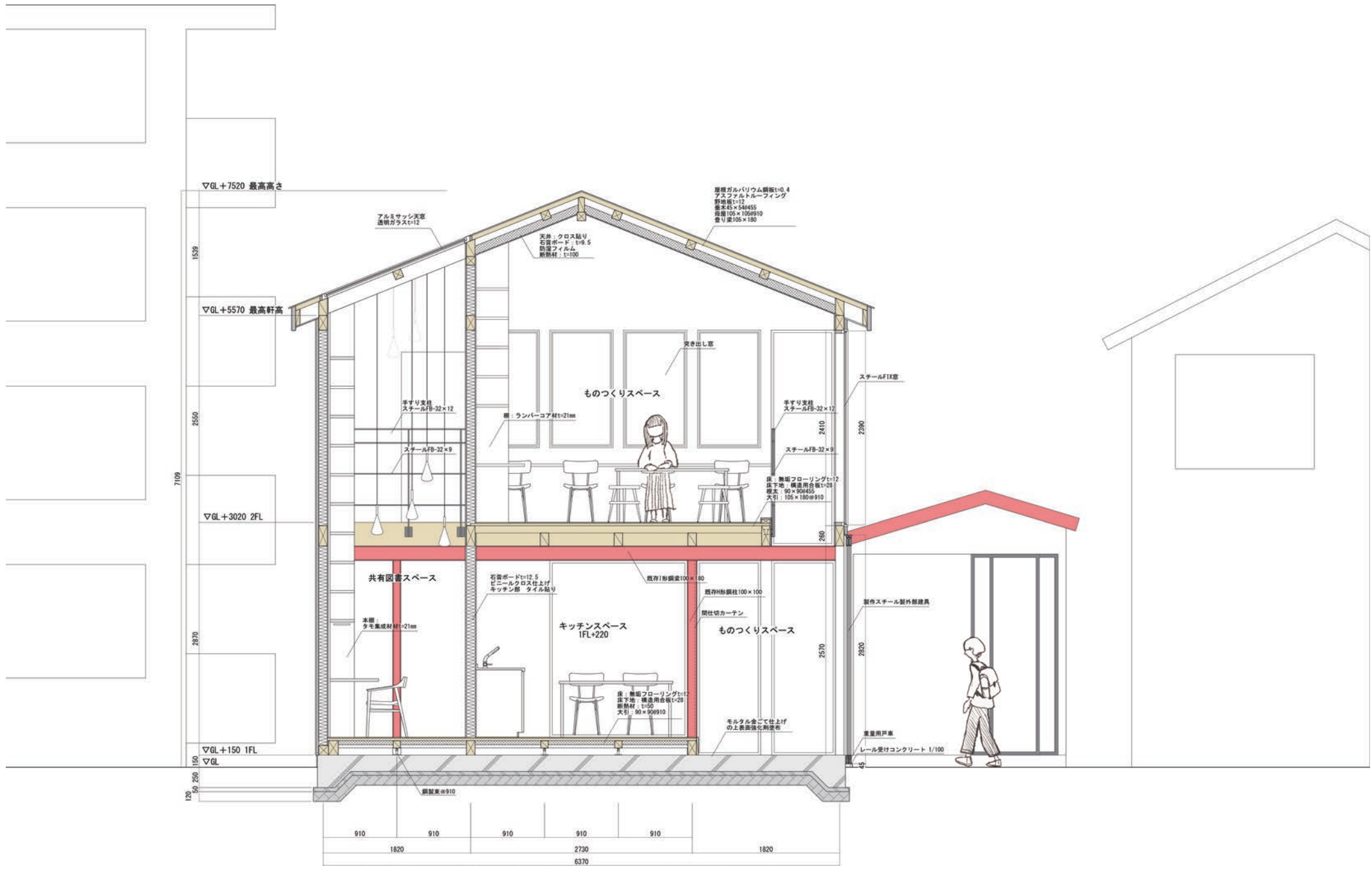
料理する。一緒に味わう。 相談する。じっくり考える。



地域に貢献する。参加する。 一人になる。自分を大切にする。

改修部分
1F- 既存土間をいかに新たな床を設けた。
2F- 吹き抜けや新たな間仕切壁を設けた。

6-2. リノベーション



改修後断面図 S=1/60

